

経営比較分析表（令和6年度決算）

和歌山県 那智勝浦町

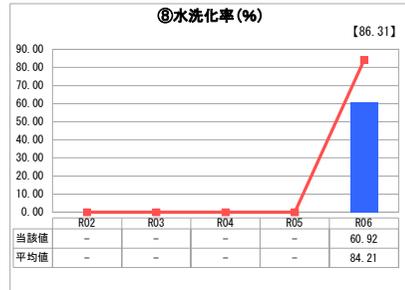
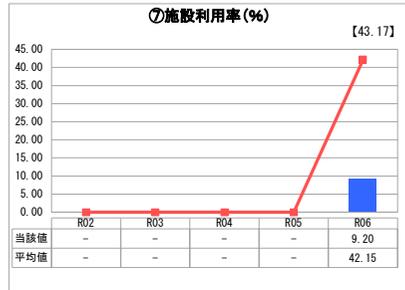
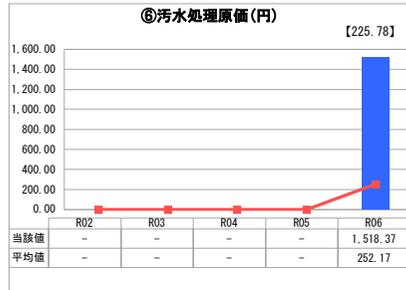
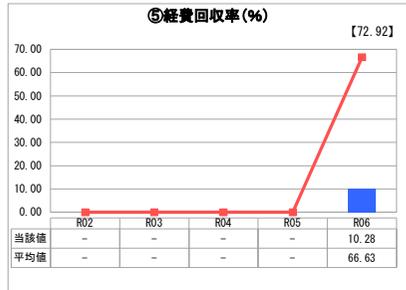
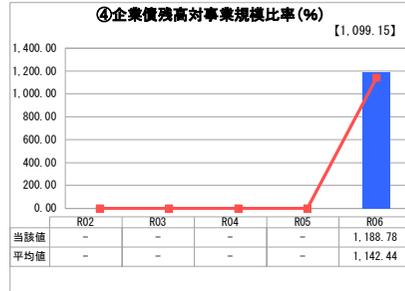
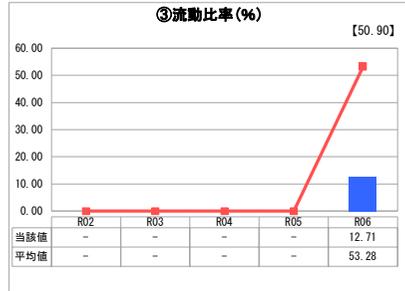
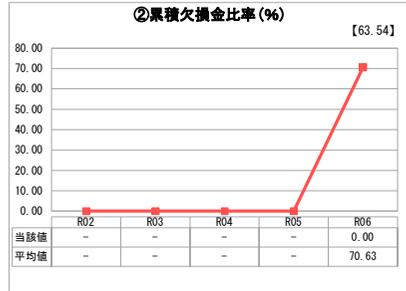
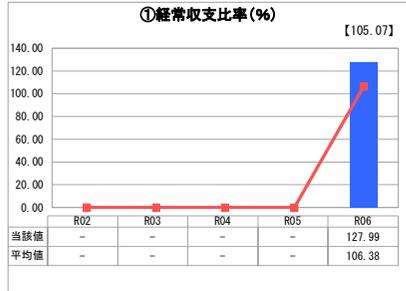
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	92.41	0.65	88.21	2,640

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,468	183.30	73.48
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
87	0.12	725.00

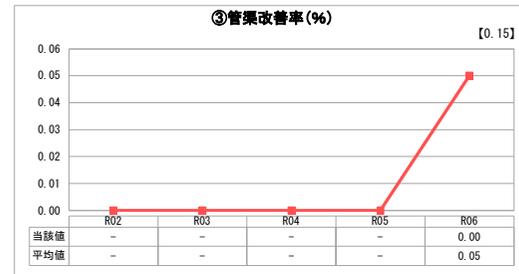
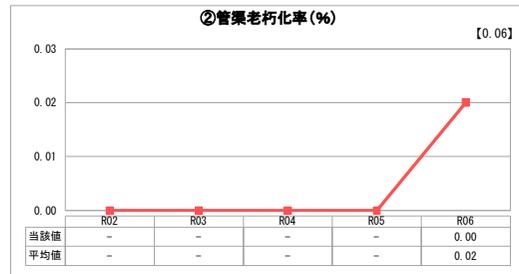
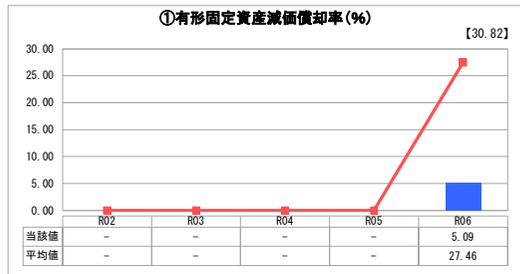
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

特定環境保全公共下水道事業ということで、定住人口の少ない那智山地区における観光人口を主な計画処理人口としているため、使用料が多く見込めない状況の中、収入の大半を一般会計からの繰入金で補填している状況である。

効率性においても、施設計画当初、観光人口の増加を見込んで施設整備を行っているため、観光人口が減少している中、施設利用率は低値となっている。令和6年度より公営企業会計に移行したため、前年度までの数値が反映されていない。

2. 老朽化の状況について

令和6年度より公営企業会計に移行したため、昨年度の数値は反映されていないが、管渠改善率については、前年度とほぼ同様である。

施設の老朽化が進んでいく中で、施設更新計画と財源確保が課題となっている。

全体総括

今後進んでいく施設の老朽化に伴い、更新費用の増加が予測されるが、使用料収入が見込めず、財源については一般会計からの繰入金が大半を占めているため、財政部局との協議が必要である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。